

平成 25 年版

西京の初夏 栽培マニュアル



初夏を彩る、新しい風物詩。

やまぐちオリジナルリンドウ

西京の初夏

一般的にリンドウは、お盆の時期から秋にかけて出荷されます。しかし、やまぐちオリジナルリンドウ「西京の初夏」は、それよりもずっと早い、5月から7月にかけて出荷することができます。初夏を彩る、新しい風物詩の誕生です。

平成23年度に品種登録を出版。平成24年度から5月1日の品種登録が開始されました。

お問い合わせ先：山口県立農業研究センター 西京センター 所在地：〒754-0002 山口県柳井郡西京町1-1 TEL: 0834-24-1800 FAX: 0834-24-1801 <http://www.kagami-ken.ac.jp/kyokai/>

やまぐちリンドウ研究会
山口県農林総合技術センター

「西京の初夏」栽培マニュアル（平成 25 年版）

1 「西京の初夏」の概要

「西京の初夏」は、山口県の気象条件に適した早生リンドウとして山口県農林総合技術センターが育成したリンドウの新品種です。

下関市豊北町で栽培されていた在来種の中から選抜して品種として育成したもので平成 23 年に種苗登録申請を行いました。

○品種の特性

- ・花色は明るい青紫色
- ・市販品種で最も早生の「ながの極早生」と同時期に開花し、高温に強いいため枯死しにくい。

表 露地栽培における特性（平成 23 年）

品種・系統	開花始め	株当たり 収穫本数	草丈 (cm)	花段数	生存率 (%)
西京の初夏	6月28日	5.3	92.1	5.3	100.0
ながの極早生	6月25日	5.5	92.6	5.3	88.0
スイブルながの早生	7月10日	5.9	91.6	5.8	100.0

表 県内産地における「西京の初夏」の栽培特性

地 点	標高 (m)	開花始め	株当たり 収穫本数	草丈 (cm)	花段数
下関市豊北町	60	6月9日	5.9	84.0	4.8
周南市須々万	380	6月28日	5.3	92.1	5.3
山口市阿東嘉年	400	7月8日	5.1	95.8	5.8

2 リンドウの経営上の特徴

- ・露地栽培のため施設経費がかからない
- ・定植すると5年程度栽培が可能
- ・1年目は株養成のため収益がない

3 栽培に必要な農業機械・資材

種苗

10 a 当たり 8,000 本

農業機械

- トラクター
- 動力噴霧器
- 灌水設備

資材 (10 a 当たり)

資材名	規格	必要量
支柱	長さ180cm	88本
直管パイプ	22mm 長さ180cm	616本
白黒マルチ	幅150cm	4本
マルチ押さえ		
フワフワネット	15cm 4マス	14巻
ハリコード		2巻
横木	長さ70cm	88本

・ 畝幅 1.5m、長さ 30m、22 畝として

4 栽培管理

(1) ほ場選定

1 回定植すると 5 年程度栽培を続けるので、ほ場選定や土づくりが大変重要です。

◎ほ場選定のポイント

- 標高の高い中山間地 (暑さに弱い)
- 夏は西日が早く陰るところ (暑さに弱い)
- 日当たりが良いところ
- 水稻の後か調整水田の後 (土壌病害虫が少ない方が良い)
- 畝間灌水ができるところ (土壌乾燥に弱い)
- 風当たりが強くないところ (背丈が高く、倒伏、茎折れしやすい)
- 排水の良いほ場 (湿害に弱い)
- 冠水のおそれのないところ (湿害に弱い)

(2) 定植準備

ア 定植前年秋

- ・ 稲ワラを早く腐熟させるため、水稻収穫後石灰窒素を 10 a 当たり 20 kg 施用して耕耘する。

イ 定植前年冬

- ・10 a 当たり完熟堆肥 3 t、苦土重焼燐 20 kg、カルゲン 20 kgを施用して耕耘する。

ウ 定植1ヵ月前

- ・ロング肥料（ロング 424、140 日タイプ）を 10 a 当たり 110 kg、ネマモール粒剤 30 を 10a 当たり 30 kg施用する。

エ 耕耘・畝立て

- ・基肥施用後、耕耘してすぐ畝立てする。
- ・畝幅 150cm でかまぼこ型の高畝（高さ 30cm）になるように成型する。

オ マルチ張り

- ・マルチ張りは、畝立て成型後、1 雨当ててから行う。
- ・白黒ダブルマルチの 150cm 幅のものを使用。
- ・白黒ダブルマルチの端は、マルチ押さえや通路の土で押さえる。
- ・通路の防草対策として、防草シート（50cm 幅）を敷いてマルチ押さえなどで押さえる。

カ フラワーネット張り・支柱立て

- ・畝の両端に 2 本ずつ丈夫な鉄パイプや杭で支柱を立てる。
- ・15cm×15cm× 4 目または 6 目のフラワーネットを 2 段に張り、両端はそれぞれ横木で固定する。
- ・フラワーネットの両側にハリコードを通し、しっかり張って両端を横木に固定する。

キ マルチ穴あけ

- ・株間 15 c m、条間 45cm で定植するため、フラワーネットの両側のマスにマルチカッター等で植え穴を開ける。マルチの植え穴が大きいと雑草が生え易いので直径 7 cm 程度の穴が良い。

(3) 苗のジベレリン処理

- ・苗が届いたら、ジベレリン処理を行う。
- ・50ppm のジベレリン溶液を噴霧器で苗がしっとりぬれる程度に噴霧する。
- ・処理後の灌水は控える。

(4) 定植

- ・苗をセルトレイから抜く前に灌水しておく。ピンセット等を使って、セルトレイから苗を抜き取る。
- ・苗をマルチの植え穴の中央に植えつける。苗はやや深植えにする。
- ・定植後、苗と土をなじませるため、必ず灌水を行う。

(5) 定植1年目の管理

ア 灌水

- ・定植後の 1 週間は乾燥させないように水分を与え続け、定植後の 1 ヶ月は絶対に乾燥させないようにする。
- ・干ばつ時は、朝夕の涼しい時間帯に畝間灌水を行う。

イ 除草

- ・雑草が繁茂すると苗の生育が抑制されたり枯死するので、一年目は特に雑草防除を徹底する。
- ・植え穴の裸地部分にバカス（サトウキビの搾りかす）などでマルチをすると雑草が生えにくくなる。
- ・畝間の雑草は、プリグロックスなどの除草剤を風の無い時に、噴霧器の圧を下げても散布する。

ウ 摘花

- ・ジベレリン処理を行うと1年目に茎立ちして着蕾するが、株養成のため早めに摘花する。開花した花は放置せず、早めに除去する。

エ 病虫害防除

- ・病虫害が発生すると樹勢低下、品質低下、枯死等を招くので、防除を徹底する。
- ・農薬は予防散布に努め、発生した場合は発生初期に徹底防除する。
- ・開花期以降も茎葉が自然に枯れるまで防除を続ける。

リンドウの主要病虫害と防除薬剤

病虫害	主な被害状況	農薬
葉枯病	葉に褐色円形の病斑をつくる。	ベフラン液剤 オーソサイド水和剤 ポリオキシシAL水溶剤
灰色かび病	下位葉の先端が褐色に枯れ上がる。	ゲッター水和剤 フルピカフロアブル
花腐菌核病	花卉に水浸状の小斑点が現れ、やがて花全体が水浸状に腐敗する。	ベフラン液剤
褐斑病	下位葉に灰褐色星状の小斑点を生じ、やがて、拡大したり上位葉に広がる。	ストロビーフロアブル ダコニール1000 フルピカフロアブル
アブラムシ類	樹液を吸うため生育が阻害される。ウイルス病を媒介したり、排泄物で葉が黒く汚れる。	アドマイヤーフロアブル モスピラン水溶剤 トレボン乳剤
ハダニ類	葉から吸汁するため、葉表に白い斑点を生じる。	コロマイト水和剤 オサダンフロアブル スターマイトフロアブル
リンドウハダニ	成長点付近から茎内に侵入して茎の中を食害するため上部が萎ちよう枯死する。	アディオフロアブル ノーモルト乳剤 ラービフロアブル
スリップス類	花に寄生する。花色が脱色する。	アディオフロアブル スカウトフロアブル

オ 枯死茎葉除去

- ・茎葉が寒さで枯死してから茎葉を除去する。
- ・手で付け根からもぎとる。
- ・除去した枯死茎葉はほ場外に持ち出して焼却する。

カ 遮光

- ・定植後の遮光（35%遮光）により、夏場の欠株率の減少や生育促進がはかられた、特に低標高地では遮光が望ましい。

(6) 2年目以降の管理

ア 基肥施用

- ・2年目以降の萌芽前に基肥を施用する。
- ・マルチに穴を開け、ここに基肥を施用する。マルチ穴は雑草防止のため藁等を置いておく。
- ・10a当たり、緩効性化成肥料を窒素成分量で10kg程度施用する（例：CDU複合リン加安S555 67kg）。

イ 芽整理（1回目）

- ・草丈が10cm程度の時、1株当たり生育良好な芽を15本程度残して、残りの弱小茎は除去する。

ウ 芽整理（2回目）

- ・草丈が30cm程度の時、1株当たり生育良好な芽を7本残し、残りの弱小茎は、茎の先端を摘心する。

エ ネット上げ

- ・生育に応じてネットを上げる。

オ 追肥

- ・6月頃に追肥を施用する。10a当たり窒素成分量で5kg程度施用する（例：有機入り化成A801 60kg）。

カ 灌水

- ・基本的に天水でまかなうが、干ばつ時は、畝間灌水を行う。

キ 除草

- ・1年目の管理に準じる。

ク 病虫害防除

- ・1年目の管理に準じる。
- ・茎葉が繁茂しているため薬剤がかかりにくいところがあるので、丁寧に薬剤散布を行う。

ケ 収穫

- ・収穫適期は、完全に頂点の蕾まで色づいた時。
- ・ウイルス等の病害を伝播させないために収穫は、ハサミを使わず手で折り取る。